



地域と学校と行政が連携した歴史文化遺産への学びと活用 : たつの市「堀家住宅」での取り組み

岸本, 道昭

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 11:59-60

(Issue Date)

2013-02-02

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81004433>



「地域と学校と行政が連携した歴史文化遺産への学びと活用」

—たつの市「堀家住宅」での取り組み—

たつの市教育委員会

岸本道昭

1 人口減少社会と文化財行政

あらゆる機会と多様な組織が連携する文化財保存活用への試み

小学校 6 年生全員＋地域（自治会）＋文化財行政＋文化財所有者の連携事例

2 学びの場として

地域の個性ある歴史に学ぶこと

—子どもの時の記憶と経験こそが文化財を未来へ引き継ぐ—

見る、触れる、体験する学びと発信の総合学習

—地域に出る、聞く、話す、表現する—

6 年生全員が来場者を案内解説

—2010 年度、約 150 名が 2 日間で 2200 名を案内しつくす実績—

文化財を活用した社会性の醸成—児童の成長と飛躍

—一気に自信に満ちた子どもに変化する—

3 地域コミュニティ活性化の場として

文化財を活かしたまちづくりへ

—諸団体が結集する自治会実践活動—

文化財の特別公開←地域の宝の再認識

—広報・清掃・設営・駐車場・もてなし・片付け—

4 場とは「歴史文化遺産」—文化財行政として—

法・条例など現行制度を最大限に活用する

地域住民こそが文化財を守り、活かし、未来へ届けられる

必要なのは世代間での継承—子どもたちこそ未来の主人公

知る、見る、認める、学ぶ、使う、活かす、伝える—仕掛けづくり

5 課題

学校教育現場における継続の可能性

自治会における受け皿団体の育成

行財政改革と自治体の文化財行政



県指定「堀家住宅」の主屋



「堀家住宅」の清掃活動



リハーサルで自治会長からの激励



案内解説の本番開始



主屋の外観を説明



主屋内部の土間での解説